

ありまふじ里山だより

Vol.42

『ありまふじ里山だより』では、棚田里山エリアの自然の様子や里山保全に向けた取り組みについてご紹介します。Vol.42は里守の会の活動の様子とくじら山についてお届けします。



里守の会、活動日！

雪がちらつくなか、かやぶき民家の屋根も薄っすらと雪化粧。この日も里守の会は精力的に活動します。

冬は山の木々が落葉しているため、落葉樹と常緑樹の区別がわかりやすく、間伐作業にはいい季節です。ソヨゴやヒサカキなどの常緑樹を中心に伐採します。この時期のソヨゴには赤い実がなっていて、鳥にとっては貴重な餌でもあります。そのためソヨゴもすべては伐採せず、適度に残すことで野生動物との共生を図っています。

里山散策路から山の入り口方向を眺めると、すっかり葉を落とした木々の間から福島大池の水面がキラキラと輝いているのが見えます。写真だと伝わらないのが残念ですが、この時期だけのささやかな楽しみでもあります。

くじら山

どんよりとした天気が多い季節ですが、めずらしく空高くスカッとした気持ちのいい天気。寒さにじっと耐えるカモたちの遠くに見える山は「くじら山」の愛称で親しまれる羽束山と甚五郎山。

いつ見ても、本物のくじら山のように、思わずほっこりしてしまいます。